

3 小型巻網対象資源についての予備調査

当真武・友利昭之助

目 的

小型巻網漁業は1966年沖縄に新規導入されて以来、アジ、サバ、イワシ類を対象とした小型巻網とカツオ餌取用巻網の2種が、着業しており、1969年6月現在統数は6統に及んでいる。

亜熱帯海域に位置する沖縄沿岸でしかも基礎生産力の薄弱な沿岸漁場で、1巻する毎に300~600Kgも大量に、しかも成育段階にかかわりなく漁獲が可能である巻網漁業が、経営面でも伸長が可能な程。対象魚の資源がありかつ、着業統数の増加を許すことが可能か否かについて検討するため、本調査研究をとりあげ、更に次年度も継続実施する。

方 法 と 経 過

資源動向の概略をつかむため、金武湾を主漁場としている勝連村巻網1統について、漁獲成積の分析を1967年6月~1969年6月まで行つた。

更に1968年11月当業船上でsamplingを行い、二、三の知見を得た。

結 果

1. 1967年6月~1969年6月の2年間について勝連村小型巻網1統の生産報告を分析し検討した。結果は表I参照。
2. 67年の年間水揚量は33213Kgで、68年は30500Kgであつた。
3. 月別水揚量の推移をみると、年により漁期に多少の変動があるにしても、秋から年末にかけて成積はよく、次いで初夏にやや良い、冬期は水揚げなし。図I参照。
4. 対象魚種はグルクマ *Rastrelliger Kanagurta* (Guvier)、メアジ *Trachurops Grumemophthalmus*、モロ *Depapterus lajang* Bleekerが8~9割を占め、その他ヤマトミズン、サツパ等があつた。
5. 魚種組成を2年間の総平均でみるとメアジ34%、グルクマ47%、その他19%であり、グルクマとメアジで81%を占める。表II、図II参照。
6. 1968年11月に測定した各魚種の測定結果は表III、図III参照。
7. 出現状況の季節変化をみるとグルクマは秋~年末に多く、メアジは初夏と年末に多い。
8. 67年と68年を比較すると、68年は前年に比べ、総水揚量、出漁日数とも減少している。1969年は2~6月まで魚群が湾内に来遊するのが、全くみられず、水揚げがないことは着業して僅か3年目にして、金武湾で巻網漁業が対象にしている魚族の再生産力及び資源量について優慮すべき事態が進展しつつあることを示唆している。

1967年と1968年の漁獲成績の比較 表I

年次	漁獲量	金額	操業 日数	延人数	1ヶ月当	1ヶ月当	漁獲量	金額	1ヶ月当
					漁獲量	金額	操業 日数	操業 日数	操業日数
1967	Kg 33213	弗 12681	日 49	人 528	Kg 4744.7	弗 1811.6	Kg 677.8	弗 258.8	日 7
1968	30500	12617	38	412	3812.5	1577.1	802.6	320.2	4.8
68-67	-2713	-64	-9	-116	-932.2	-234.5	+124.8	+61.4	-2.2
68/ 67	% 91.8	99.5	77.6	78.0	80.4	87.1	118.4	123.7	68.6

魚種組成の年比較 表II

年次	メ ア シ		グ ル ク マ		そ の 他		計	
	漁獲量	金額	漁獲量	金額	漁獲量	金額	漁獲量	金額
1967年	Kg 10032	3244	Kg 15683	6846	Kg 7498	2591	Kg 33213	12681
	29.4%	25.4%	46.4%	50.3%	24.1%	21.1%	100%	100%
1968年	11740	5061	14350	6606.8	4410	1488	30500	12617
	41.7	43.2	46.5	46.5	11.7	10.0	100	100
68~67	+1708	+1817	-1333	-778	-3088	-1103	-2713	-64
68/ 67	117.0%	156.0%	91.5	88.6	58.8	57.4	91.8%	99.5
計	34.17	32.8	47.13	51.0	18.69	16.2	100	100

魚体測定結果

1968. 11. 19 表III

魚 種	標本数	平均値	範 囲	標準偏差
グ ル ク マ	132	20.8cm	17.4~23.9	1.89
メ ア シ	17	22.5	19.9~25.1	1.09
モ ロ	117	18.6	13.6~20.0	1.22
サ ツ パ	38	8.3	7.4~9.1	0.39
キンメモドキ	18	5.0	4.6~5.6	1.20

